

# 苦渋の決断／国が方向性示して



「国保は国が責任を持った運営を」と語る大西秀人高松市長

## 大西・高松市長に聞く

国保料の大幅な引き上げを決断した理由や望ましい医療制度のあり方について、大西秀人市長に聞いた。

――一気に保険料を上げた理由は。

決断した理由や望ましい医療制度のあり方について、大西秀人市長に聞いた。

国保料の大幅な引き上げを加えし、低所得者の割合が高くなっている。保険料を上げざるを得ない状況が続いている。制度が破たんするのは目を見えている。

――15年度からは国保財政の一般会計からの繰り入れは2009年度までは10億円以下に収まっていたが、10年度以降、20億円を超えるようになった。これまでは何とかやられ、制度が破たんするのは目を見えている。

安定化のため、都道府県単位の事業運営が行われる。

医療保険は国が責任を持つて一本化すべき。国保運営を都道府県単位で広域化するの

つてこれが、立ちゆかなくは良いことだが、それは最終なった。苦渋の決断であり、被保険者の方にも申し訳なく思っている。

――現状の国保制度をどう見るか。

は良いことだが、それは最終的な目的ではなく、国の運営に至る過程の一つであるべき。

――社会保障と税の一体改革への期待は。

国保に関してはほとんど議論が進んでいない。高松市

ために高度成長期にできた制度。当時は自営業者や農業者が主な加入者だったが、社会構造の変化により、高齢者や単身者、非正規労働者が大勢

なる。

国保は、国民皆保険実現のため、制度の運営が進んでいない。高松市

場合、3年後には再び国保料度。当時は自営業者や農業者が主な加入者だったが、社会構造の変化により、高齢者や単身者、非正規労働者が大勢